

事業シート(概要説明書)				
事業名	津山市連合町内会団体運営補助金		担当部名	地域振興部
			担当課名	協働推進室
事業年度	開始年度： 昭和31年		終了年度： 計画無し	
総合計画での位置付け	まちづくりの推進方策 市民と行政の新たな関係づくり 市民主役のまちづくり 共創・協働のまちづくりの推進			
根拠法令等	なし			
実施方法	直接実施	委託	指定管理	補助金
	実施主体・委託先等		津山市連合町内会	
事業概要	目的・必要性 (何のために)	津山市では長きにわたり、地域福祉をはじめ行政施策・サービスを進めていく方法として、地域基盤となる町内会を窓口・相手方とし、連携し取り組みを行って来た。地域での理解の下で、協働により行政施策サービスを有効に進めていくには、地域の力が大変重要であり、その地域力の連合体である津山市連合町内会の組織の充実と存続は、津山市内全域の地域基盤の維持につながり、効率的に事業を進めるためにも大変重要な役割をもつものである。		
	対象 (誰・何を対象に)	津山市連合町内会組織運営		
	事業内容 (手段、手法など)	市内367町内会で組織される津山市連合町内会の運営に対し、補助金を交付。 (単一町内会の運営へ個別に助成するのではなく、市内全域が活動範囲となる唯一の自治連合組織である津山市連合町内会へ補助金を交付している。)		

【支出】		H21決算	H22決算	H23決算	H24予算
事業費	報酬(嘱託・臨時職員含む)				
	賃金				
	報償費				
	旅費				
	需用費				
	役務費				
	委託料				
	負担金、補助及び交付金	8,571	8,571	8,571	8,142
	扶助費				
	その他( )				
合計(千円)	8,571	8,571	8,571	8,142	

事業費の財源内訳	国・県からの補助金等				
	地方債				
	その他( )				
	一般財源	8,571	8,571	8,571	8,142
合計	8,571	8,571	8,571	8,142	

従事者数	正規職員(人/年)	0.0	0.0	0.0	0.0
	嘱託・臨時職員(人/年)				

事業シート(概要説明書)

目的達成のための活動指標	活動指標名	単位	H22年度	H23年度	H24年度
	組織加入率(%) (市広報 配布世帯数) ÷ 総世帯数	目標	100	100	100
	実績	94	94	94	
指標選択理由	<p>新しい公共、共創・協働の地域づくりの視点から、地域基盤となる町内会、地域力の維持、強化を図ることが重要。地域住民自治組織である町内会は、津山市が福祉・健康・環境整備・防災他あらゆる行政サービスを進めて行く上で、地域の窓口となり、施策を進めるパートナーである。町内会組織への加入率は、津山市の地域力を示す指数と考えられる。</p>				
事業目的の達成状況	<p>市内367町内会で組織される津山市連合町内会。その属区域は、市内全域におよび、津山市の地域力を示す大きな特徴のひとつである。地域自治組織を立ち上げるために助成を行う自治体もある中、津山市では非常に高い組織率が保れている。</p>				
現在の課題と今後の対応	<p>津山市が福祉・健康・環境整備・防災・交通施策他あらゆる行政サービスを行う上で、地域における町内会の役割は非常に大きく、また、その連合体である津山市連合町内会は、市内全域に効率的に施策を進めていく上で大きな役割を担っている。近年、人口減少、少子高齢社会、生活様式の多様化等もあり、地域社会が本来備えていた市民の連帯意識や、つながりの希薄化が叫ばれ問題となっている。地域には、地域自治・コミュニティ活動を通じて市民自らが主体的に地域の課題解決に取り組める力が必要であり、新しい公共、共創・協働の地域づくりの視点からも、地域基盤となる地域力の維持、強化を図ることが重要である。津山市連合町内会は、連合体から支部、そして単一町内会と段階的に構成され、その特徴を活かし問題解決に取り組むことができる。津山市連合町内会への積極的な支援は、市全域への統一的な支援であり、市民の自発的なまちづくり活動、地域力の継承、活性化を推進し、安心して暮らせる地域づくりを進めるのに必要な基盤となる地域(地域力)の維持と充実に繋がる。</p>				
今後の方向性	<p>直営(拡大・充実)      直営(現行どおり)      直営(要改善)      民間等実施      廃止</p> <p>平成16、19、24年度、厳しい経済・財政状況を理由に、政策的に補助金削減を行っている。本事業は、津山市の地域、環境、まちづくりの基盤となるものである。市内全域に及び組織率をもつ対象者の活動状況を見据え、津山市の経済・財政状況を踏まえたうえで、削減方向だけでなく、拡大・充実を含めた判断の中で助成を継続していく。</p>				
特記事項 (事業の沿革等) (他都市との比較等)	<p>【過去10年の補助状況】</p> <p>平成13～15年度 5,700,000円                  平成16年度 5,400,000円 (補助金見直しにより5%削減)                  平成17年度 11,333,400円 (合併調整:うち旧津山市分5,400,000円)                  平成18年度 8,785,000円                  平成19年度 8,571,000円 (行財政改革により約3%の削減)                  平成20～23年度 8,571,000円                  平成24年度 8,142,000円 (政策的判断により5%削減)</p> <p>(決算額(H24予算額)対比                  H18-69.8% H19-69.8% H20-69.1% H21-68.2% H22-69.5% H23-72.1% H24-72.9%)</p> <p>H16年度の市町村合併により、旧津山市の制度に合わせ調整。1年の経過措置期間を経て現体制へ。合併前の世帯割(年)比較、(助成額(年) / 全世帯数)は、阿波6,251円 加茂523円、久米975円、勝北605円、津山157円。平成24年度現在予算ベースで184円。</p> <p>津山市連合町内会予算書、活動方針 (別添)</p>				